

## 香港出張報告 (Apple Site Visit in Hong Kong)

2012年9月にApple社が主催する「Apple Site Visit Tour in Hong Kong」に参加し、香港の大学を視察した。以下に視察内容や所感を記載する。

### 1. 趣旨

香港の大学は多言語環境、都市型キャンパスの業務効率化、大学間競争など、日本の大学が直面する課題と共通事項が多い。近年、アジア諸国との大学間交流も求められる中、Apple社が海外教育機関視察として主催する香港の大学2校の視察訪問に参加し、主に学生支援のための大学ICT環境の面で日本の大学との違いを確認する。

### 2. 期間

2012年9月23日（日） ～ 9月26日（水）

### 3. 本学からの参加者

メディアセンター センター長 平山 孝人 （理学部 物理学科 教授）  
課員 小川 龍秀  
課員 饒村 良司

### 4. 視察した大学 ※大学情報等の詳細は [\[香港出張報告 詳細\]](#)を参照

香港城市大学 (City University of Hong Kong)

香港公開大学 (The Open University of Hong Kong)

### 5. 所感

#### (1) 香港城市大学の視察

香港城市大学では、ICTを利用した学生支援システムや学業アドバイスのシステム、履修科目の選択支援システム等の活用に入力しているようであった。これにより学生はいつでもどこでも学習でき、世界中とコミュニケーションがとれる環境が提供されている。既に導入されているe-ポートフォリオ等の学生支援システムは、学生の学習効果の向上に役立つという調査結果が出ており、今後のさらなるグローバル対応のためにも、ICTを利用した学生支援が必要不可欠と考えられている。講義のWEB配信が進み、大学の価値が問われ始める中、香港城市大学はICTシステムの有効的な活用方法を常に模索しながら運用していた。

キャンパス内は無線LAN環境が整備され、構内にはキオスク端末の設置も見られる。スマートフォンやiPad等のモバイル端末からe-learning等のシステムへのアクセス率

が近年急増している調査結果は非常に興味深かった。

建設中の新棟は高層ビルのように大規模なもので、施設の拡充が進んでいた。見学した理工学部の施設には大学らしからぬ最新の設備が整っていたことが印象的であった。

## (2) 香港公開大学の視察

一方、香港公開大学は通信教育を主とした大学であり、多くの社会人学生にも学習環境を提供している。遠隔授業やe-learningだけでなく、対面授業を混ぜ合わせたブレンド・ラーニングも取り入れていることが特徴である。学生は各自で授業予習をe-learningやオンデマンドで行い、その学習を踏まえ、対面授業で演習やグループワーキングを行っている。演習やグループワーキングという用途に合わせ、プロジェクター等の教室AV機器や機の配置を工夫している教室もある。

チューターやメンターの仕組みも確立され、学生が学外にいながらも充実した学習支援を受けられるようなICT環境を整備・提供している。新しいシステムを積極的に取り入れていくことで、学生の学習の効率化を計り、経営面ではコスト削減にもつなげている。iTunesUでの講義公開や、eBooksの利用にも積極的である。

## (3) Apple社、Pearson社への期待

視察した2大学には、今回の視察ツアーを主催したApple社のサービスとPearson社のサービスが提供されていた。

Apple社はモバイルや電子化に対応したサービスや端末を、教育現場での活用を考慮して提供してきている。特にiTunesUやeBooksは教育現場にフォーカスしたサービスであり、モバイル端末との連携もなされ、米国では高く評価され普及している。日本では著作権や教科書の電子化の遅れが障壁となっているが、グローバルトレンドとしてこのようなサービスが今後普及していくことは間違いないように思える。

Apple社の場合、サービス対応端末を同社のものに一部制限していることが難点ではあるが、時代をリードする同社のサービスは日本の教育現場でもICTを革新的に普及させるきっかけとなるだろう。

今回のツアーの中でも紹介があったPearson社は、日本ではあまり馴染みのない出版社ではあるが、世界的60カ国以上で事業を展開しているグローバルな出版社であり、視察した2大学にもいくつかのサービスを提供している。企業の社内教育で使われるような実践的な英語教材が強みであり、コミュニケーションを主とした学習支援サービスも提供している。提供システムのほとんどはモバイル対応しており、今後はApple社のような企業との連携が期待される。

#### (4) まとめ

香港はアジア流通の拠点でもあり、他民族国家である。大学の授業も基本的には英語で行われ、日本とくらべグローバル対応が進んでいるように感じた。また、香港では2012年度から大学が3年制から4年制へと学校制度が変更され、世界標準となる。定着には時間を要するかもしれないが、今後ますますのグローバル化が進むことが予想される。

今回視察した2大学では、学生の多くがスマートフォンやタブレット端末等のモバイル端末にシフトしてきていることが明らかになっている。日本においても同様のことがいえるが、香港では大学の授業や学生支援の面でそれらをより積極的に活用しているように感じた。

日本の大学が直面する課題と共通事項が多い香港の大学は、ICT活用の面においても大いに参考になるものであり、グローバル化も考慮すると間違いなくアジアをリードする存在である。今後の動向は日本の大学にも大きな影響を与えることが予想され、注目していく必要がある。